

【ネジの世界ではテンプラとドブは同じ？】

「メッキがはげる」など言いますが、辞書で「めっき」を調べると「見せ掛けだけで内容のないこと」と出てきました。「表面を飾り中身の劣悪を隠すこと」ともあります。同じ辞書で「テンプラ」を調べると「めっきしたもの」と出てきました。徳川家康の死因が「鯛の天ぷらに当たったせい」といわれてからテンプラも余り良い意味では使われなくなったのかもしれませんが。

でも、この話自体も「テンプラ」といわれていますから注意してください。

【豆知識】

「テンプラ」は余り良い意味では使われていません。その例を（揚げて）みました。

提出書類などで成分の数値を多めに書いてあることを「テンプラ」といいます。

警察では偽造ナンバーを「テンプラ」といいます。

競馬では競走馬の血統をごまかすことを「テンプラ」といいます。

和菓子の製造ではお菓子の表面を砂糖や羊羹などで被せるのを「テンプラ」といいます。

ゴルフでは失敗して空高く上がったボールを指して「テンプラ」といいます。

野球では高い内野フライを打ち上げてしまったときに「テンプラ」といいます。

土木では道路を整備せずに表面だけを舗装することを、「テンプラ」といいます。

電気ではハンダの中に空洞ができて半田付けが不良になったものを「テンプラ」といいます。

学生さんは制服だけ借り物で中身の伴わない生徒を「テンプラ」といいます。

新聞業界では架空契約の事を「テンプラ」といいます。

これらの語源は小さな海老をあたかも大きな海老であるかのように見せかけた海老の天麩羅なんです。

その「見かけ倒し」で「中身を伴わない」ものの代表が「テンプラ」らしいです。かわいそう。

ポルトガル語の **temperar** は「調味料を加える」や「油を使用して硬くする」の意味です。

ここから来たという説やポルトガル語またはスペイン語の **templo**（寺院）の前で、「揚げ物」を食べていたのを日本人が見てポルトガル人に聞いたら、寺院のことと勘違いして **templo** だと答えたからという説もあります。他にもたくさんの説があります

ところで、ここでは**溶融亜鉛めっき**のお話。溶融亜鉛めっきは「テンプラメッキ」とも呼ばれます。

なんだか相当の悪のようですね。でも良し悪しは別にして、実際に溶融亜鉛めっきの作業を見ていると本当に「テンプラの揚げ方」そのものなんです。（決して悪くはありませんので悪しからず。）

溶かした熱い亜鉛槽の中にネジをかごに入れて漬けて時間が来ると引き上げます。品物の表面に亜鉛が付着し凝固します。その姿は天ぷらにころもをつけて揚げる様子そのものです。

同じように溶融亜鉛めっきは「ドブメッキ」ともいいます。これはメッキ槽（テンプラ鍋）が細長くてドブのような形だからではないでしょうか。色も灰色で見た感じも「ドブ」のように見えました。

ごめんなさい。でも作業は大変なんです。熱い中での作業ですからとても敬意を表してしまいます。

さて、溶融亜鉛めっきですが **JIS H 8641** に規定されています。英語では **Hot dip galvanized coatings** です。

英語でも **Hot**=熱や
dip=漬ける は
変わらないようです。

ここでは右表に
溶融亜鉛めっきの
種類と記号を
掲載します。

種類	記号	ネジ関係など参考適用例抜粋
1種A	HDZ A	直径 12mm 以上のボルト・ナット及び厚さ 2.3mm を超える座金類。
1種B	HDZ B	厚さ 5mm を超える鋼材・鋼製品、鋼管類及び鋳鍛造品類。
2種35	HDZ35	直径 12mm 以上のボルト・ナット及び厚さ 2.3mm を超える座金類。
2種40	HDZ40	厚さ 2mm を超え 3mm 以下の鋼材・鋼製品及び鋳鍛造品類。
2種45	HDZ45	厚さ 3mm を超え 5mm 以下の鋼材・鋼製品及び鋳鍛造品類。
2種50	HDZ50	厚さ 5mm を超える鋼材・鋼製品及び鋳鍛造品類。
2種55	HDZ55	過酷な腐食環境で使用される鋼材・鋼製品及び鋳鍛造品類。